

慢性閉塞性肺疾患に対する臭化チオトロピウムの効果

豊島 秀夫¹⁾ 森田 正勝¹⁾ 富永 博之¹⁾
渡辺憲太郎²⁾ 佐々木 悠¹⁾

¹⁾ 福岡大学筑紫病院内科第二

²⁾ 福岡大学病院呼吸器科

要旨：慢性閉塞性肺疾患に対する臭化チオトロピウムの呼吸機能に及ぼす効果について、2週後と8週後に検討した。安定期の慢性閉塞性肺疾患で GOLD ガイドラインに準じて軽症以上と診断された31症例について、臭化チオトロピウム吸入 $18\mu\text{g}$ 一日一回朝吸入を行った。吸入開始前、2週後、8週後に午前10時に呼吸機能検査（スパイログラム、フローボリューム曲線、ヘリウム希釈法による肺気量分画）を施行した。試験中1例が口渇感、1例が排尿障害で投薬を中止した。2週後一秒量は全体で約100ml増加し、同様の効果を8週後に認めた。肺気量分画では、全肺気量と残気量は有意に変化しなかったが、残気率の減少と最大吸気量の増加が2週後と8週後にみられた。臭化チオトロピウムにより慢性閉塞性肺疾患の閉塞性換気障害と肺過膨張は吸入2週後には改善され、8週後も同様の効果を認めることが示唆された。

キーワード：慢性閉塞性肺疾患、臭化チオトロピウム、スパイログラム、最大吸気量